

中学受験

1対1個別指導の使い方

-わが子の力を最大化する-

目次

▶なぜ中学受験に個別指導が必要とされるのか？	3
▶受験者数/率の増加と問題の難化	4
▶画一的な集団授業ではカバーしきれない課題への対応	5
▶子どもの理解度や性格の違いに合わせた対応の必要性	6
▶志望校別対策の個別最適化が必要	7
▶保護者のサポート力格差と家庭の負担	8
▶教育投資の増加に伴う、個別指導利用者の増加	9
▶個別指導塾の検討・使い方フローチャート	10
▶偏差値帯別の課題とアプローチ	11
▶個別指導塾の使い方	12
▶中学受験の合否は算数の出来次第	13
▶保護者の方に知って欲しい大事なこと	14
▶LEFYで成績が伸びた生徒の事例	15
▶LEFYの講師陣	16
▶よくあるご質問	17
▶料金システム	18
▶ご入塾までの流れ	19

なぜ中学受験に個別指導が必要とされるのか？

理由1

受験者数/率の増加と問題の難化

理由2

画一的な集団授業ではカバーしきれない課題への対応

理由3

子どもの理解度や性格の違いに合わせた対応の必要性

理由4

志望校別対策の個別最適化が必要

理由5

保護者のサポート力格差と家庭の負担

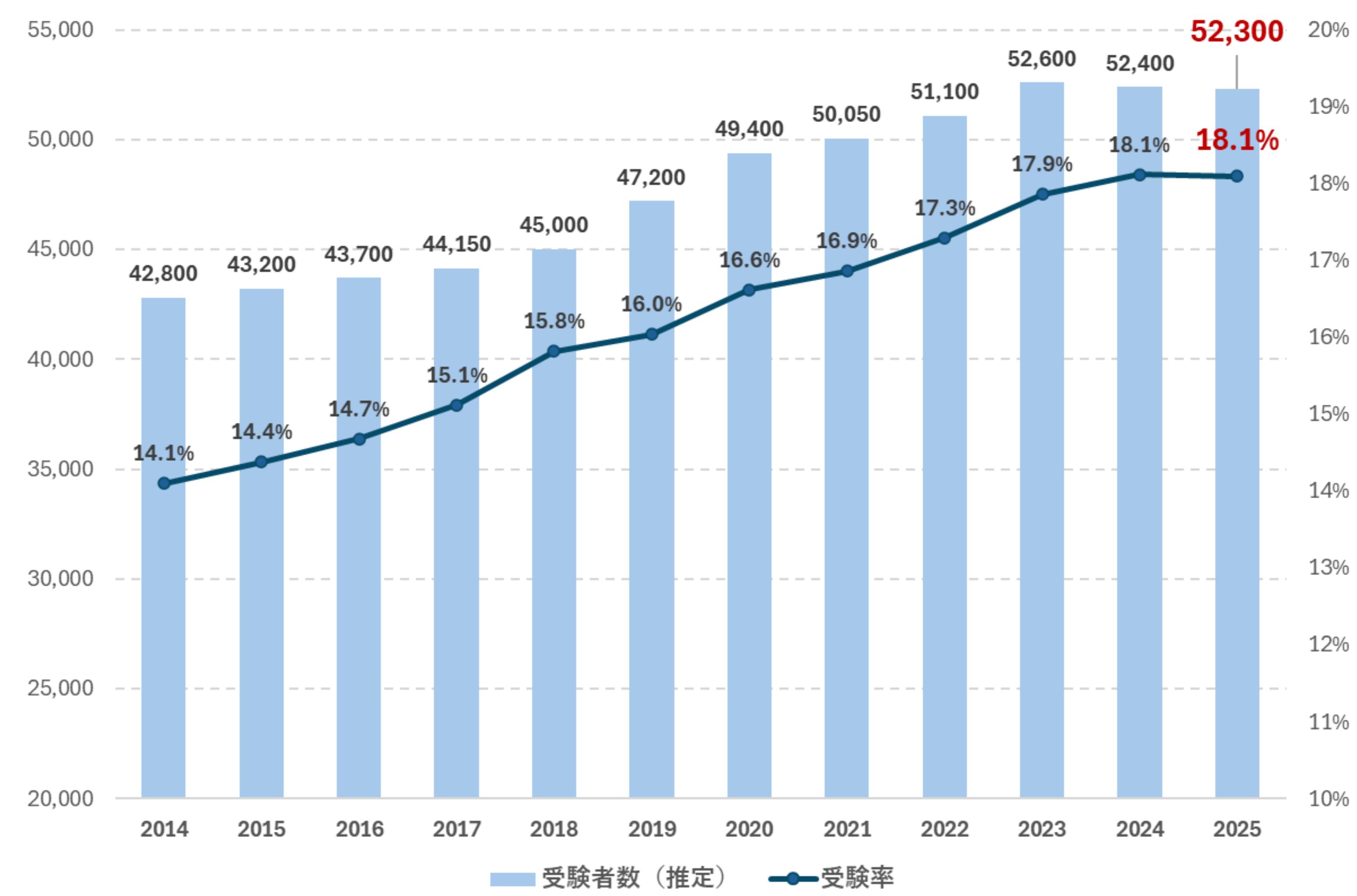
理由6

教育投資の増加に伴う、個別指導利用者の増加

理由1 受験者数/率の増加と問題の難化

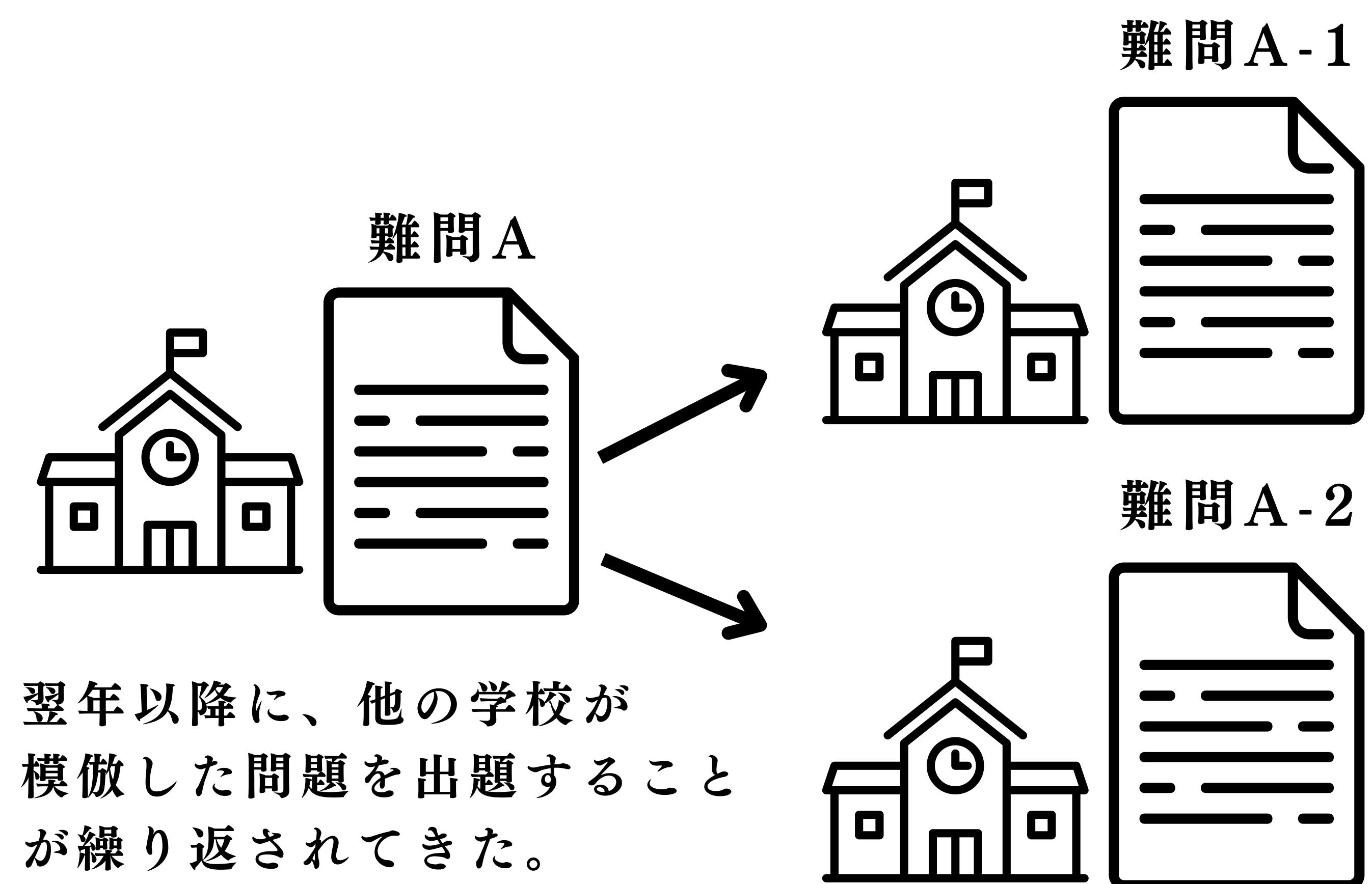
近年、受験者数/受験者率が上昇し続けており、また、問題がますます難化していることで、競争が激化。

中学受験者数・受験率とともに近年は最高水準で推移。昔のように「受けければどこかに受かる」ことはなくなり、**相当な努力をしても合格が難しい状況になってきている。**



※首都圏模試センター：1998～2025年入試までの受験者数の推移
(私立・国立中学校)

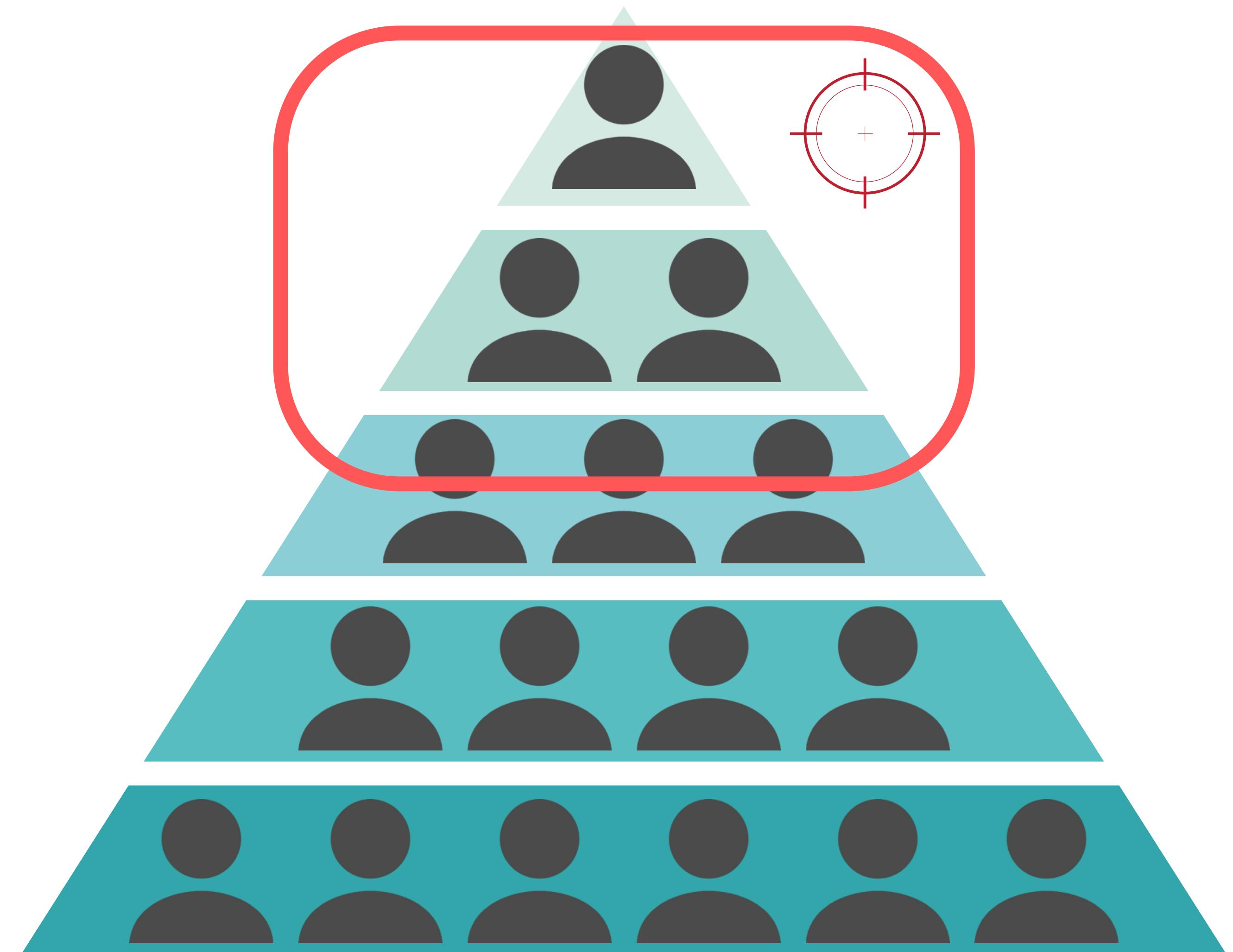
昔は最難関校が新たな難問を生み出していたが、近年は過去の難問が定番問題として出題され、**難問が知識化**。子どもが吸収しなければいけない**パターン・知識が難化**した上、**膨大な量**となり、負担が増加した。



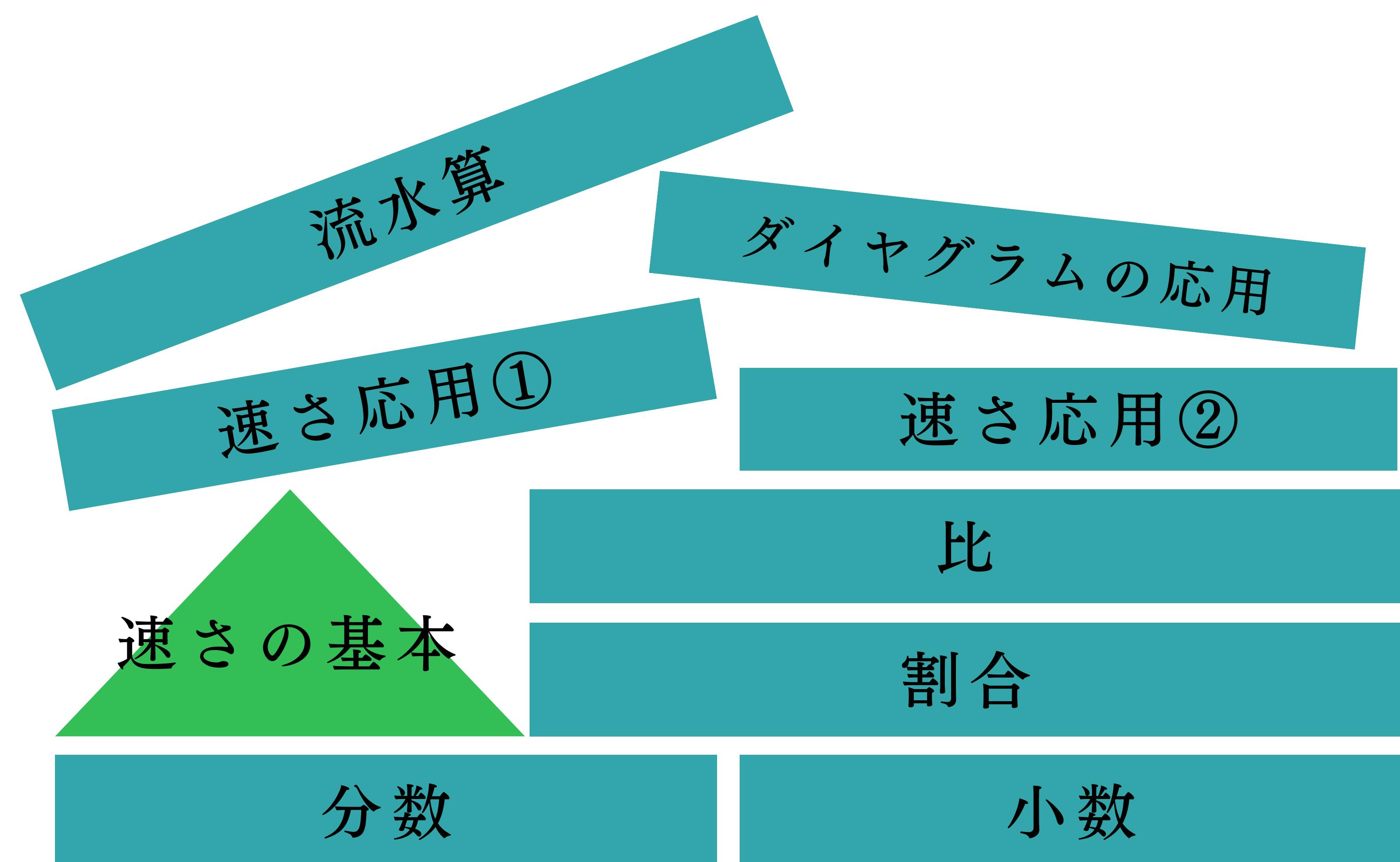
理由2

画一的な集団授業では カバーしきれない課題への対応

集団塾の授業やテキストは**中間層**～**上位層**がメインターゲット。結果、必然的についていけない層が生まれてしまう。一度理解不足に陥ると、ますます理解不足に陥る負の連鎖が始まってしまう。



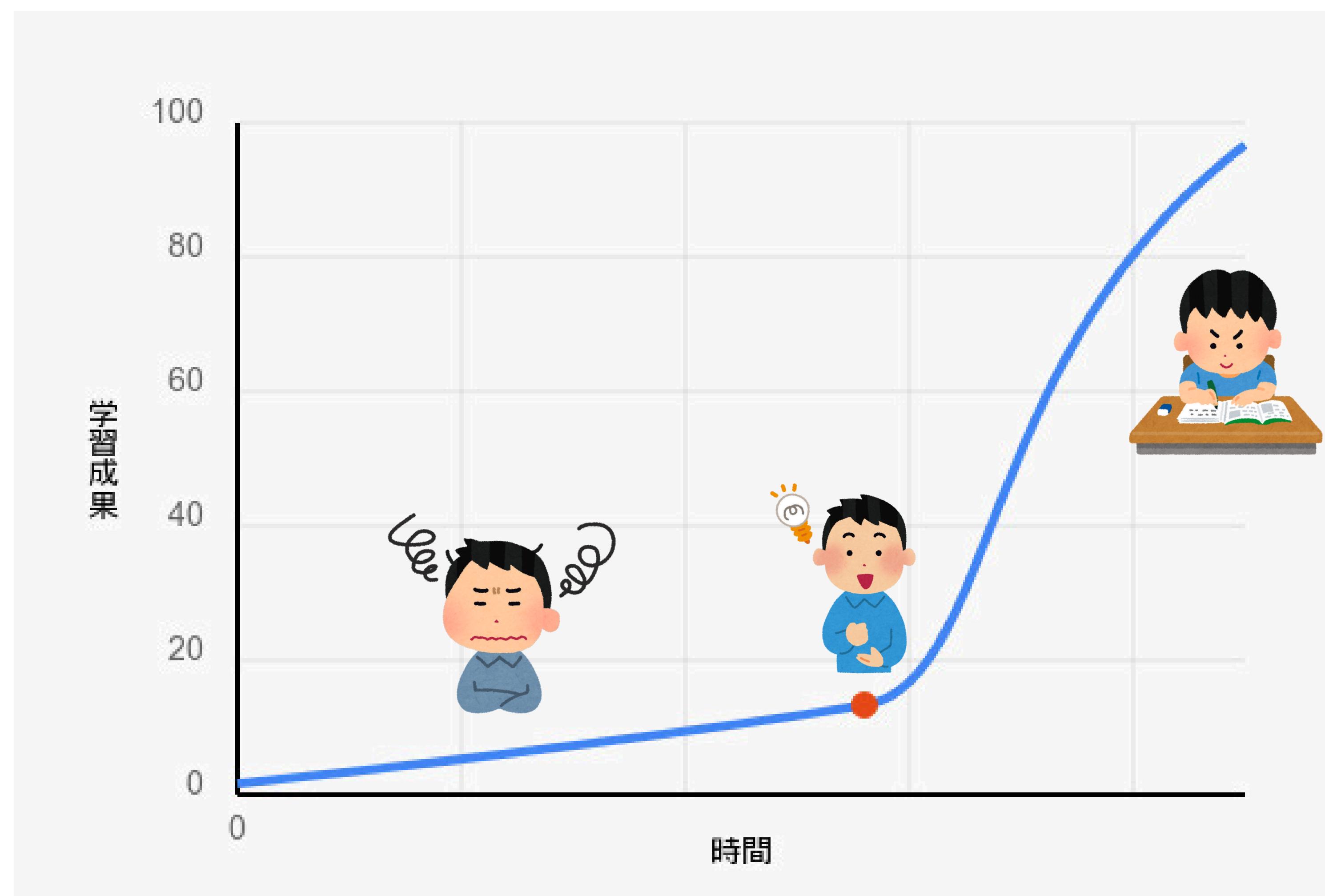
理解・定着不足の単元があると、その後の学習に影響してしまう。しかし、集団授業では、生徒一人ひとりの各単元の理解度を詳細に把握することは難しい。**生徒一人ひとり個別に、単元別にサポート**することが求められる。



理由3

子どもの理解度・ 性格の違いへの対応

理解し、納得感を得るのに時間がかかるタイプのお子さんは多い。勉強が苦手というわけではなく、**納得感を得れば凄まじく伸びることもある。**納得がいくまで繰り返し説明し、体得するまで反復演習することが必要。



「その場で素早く理解して応用できるタイプではない」
「先生に質問しづらい」といったお子さんの場合、集団授業では理解の抜け漏れが生じ、実力を十分発揮できない。さらに、
「競争が苦手・競争に興味がない」場合、勉強への苦手意識が芽生えたり、自己肯定感が低下してしまうこともある。

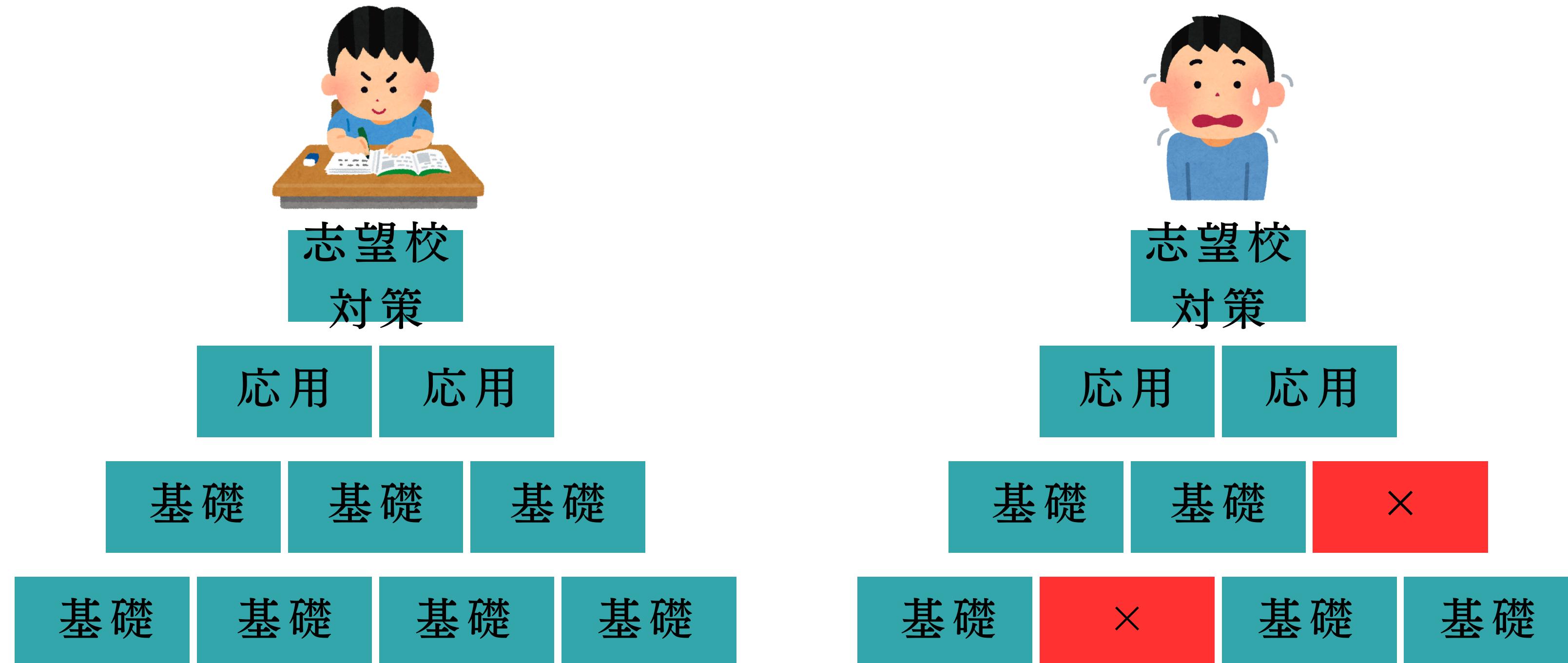


理由4

志望校別対策の
個別最適化が必要

最難関校を目指すお子さんは基礎が十分定着しているため、**画一的な志望校対策**でも成果が出る。

しかし、多くの受験生は基礎の理解・定着に抜け漏れがあり、**画一的な対策だけでは志望校合格に必要な力がつかない**。そのため、一人ひとり異なる弱点を埋めながら、基礎固めを重視した個別最適な志望校対策が必要。



多くの集団塾では最難関校向けの対策コースは充実しているが、それ以外の学校向けの専用コースはあまり設置されていない。そのため、第一志望校の対策に偏りがちで、第二・第三志望校への備えが不十分となり、**全落ちの可能性が高まってしまう**。御三家等、最難関校を受験しない受験生にも志望校対策は必要。



理由5

保護者のサポート力格差と家庭の負担

中学受験では、保護者のサポートが極めて重要。自身が中学受験を経験した保護者や情報が豊富な保護者と、経験や情報が不足している保護者との間には大きなサポート力の格差が存在する。この差がお子さんの成績にも大きく影響している。



小学生は自分で計画的に勉強を進めることが難しいため、中学受験では保護者がしっかりサポートすることで成績が伸びる。しかし、毎日のサポートは負担が大きく、特に共働きのご家庭では時間的にも難しいのが実情。個別指導塾や家庭教師の活用が求められる。

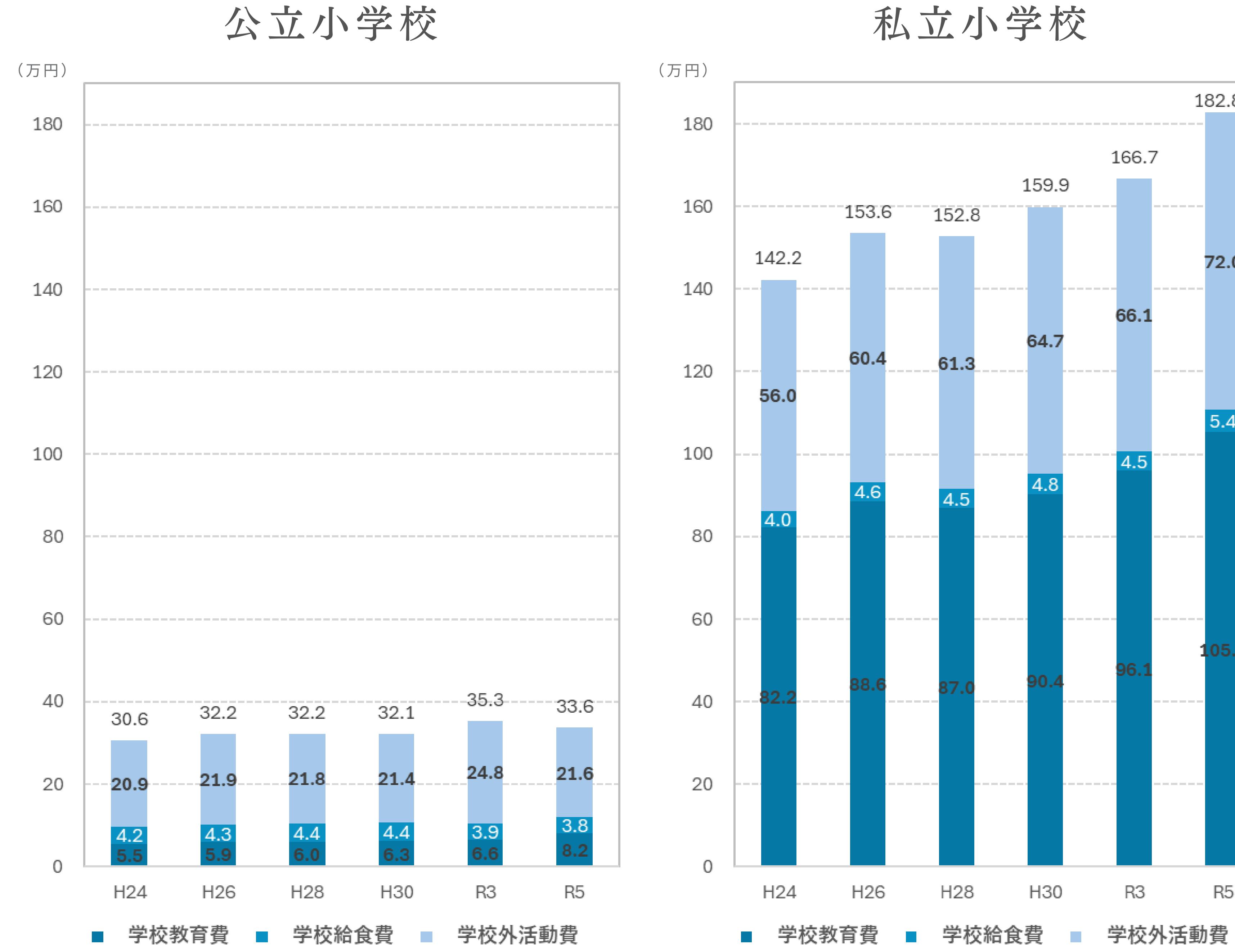


理由6

教育投資の増加に伴う、 個別指導利用の増加

近年、少子化が進む一方、子ども一人あたりの教育投資、学習費が上昇している。これまでにご紹介した事情を踏まえ、個別指導塾や家庭教師を利用するご家庭がかなり増えており、**利用の有無で格差が生まれてしまう**状況となっている。

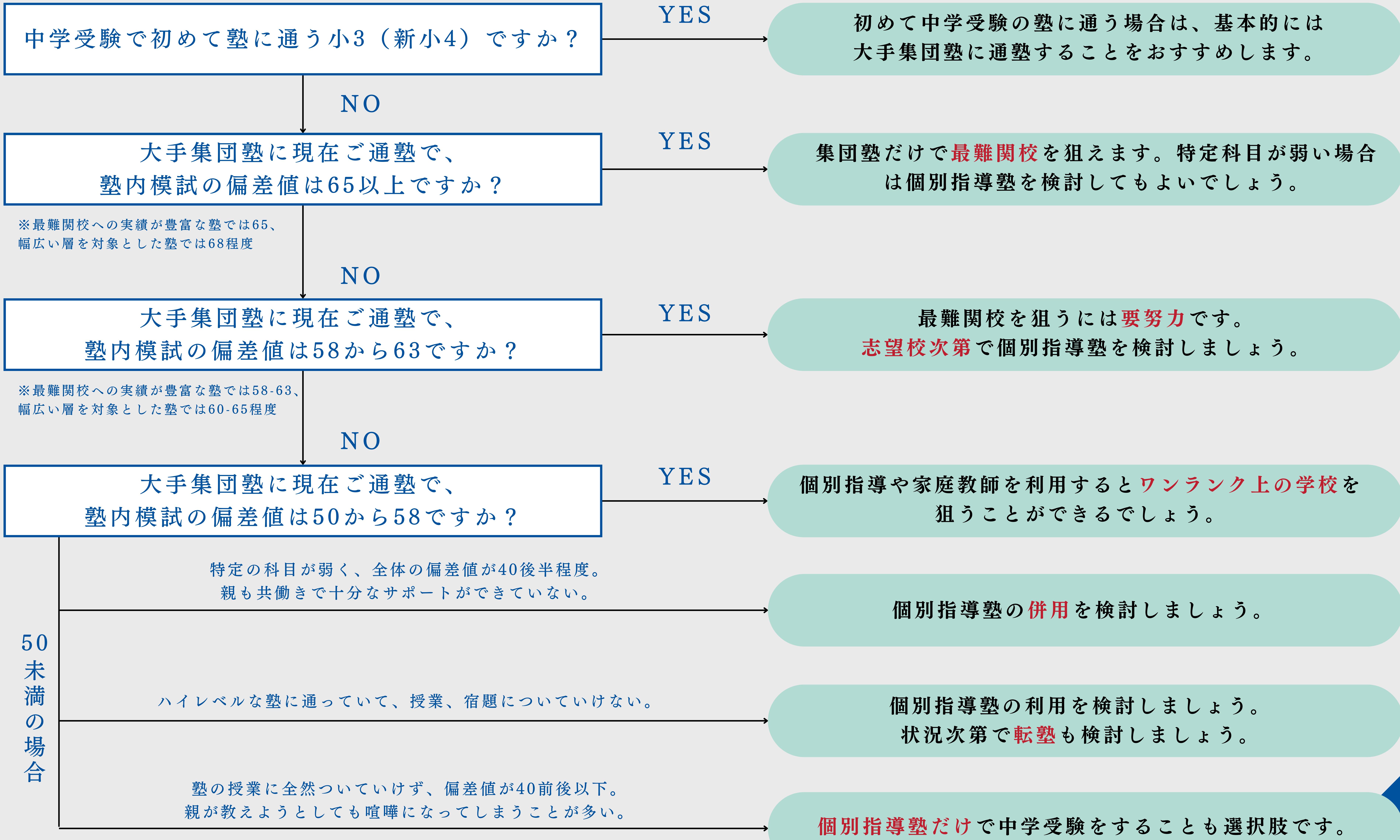
公立・私立小学校における学習費総額の推移（直近約10年・本調査6回の推移）



集団塾に加えて、以下を併用する中学受験生が増加。

- 個別指導塾
- 家庭教師
- オンライン教材
- 単科専門塾

個別指導塾の検討・使い方フローチャート



偏差値帯別の課題とアプローチ

偏差値帯	集団塾の消化状況	よくある課題	LEFYのアプローチ例
63以上	集団塾の授業を十分消化できており、基礎が身についています。最難関校を目指せます。	成績上位層の多くは得意科目がある。最優先は、安定しない苦手科目、単元を克服し、4科目偏差値を伸ばすこと。	苦手科目の対策。 小6夏前までであれば既習範囲の基本～応用までを一気に復習。夏以降は志望校対策。
56～62	集団塾の授業の消化率は70%程度です。ただし、理解・定着不足な単元が散見されます。	応用問題を完璧に消化できていない／宿題が1周するだけなど、十分取り組めていない／苦手科目・単元を放置している	集団塾の宿題を完璧に消化することを最優先にサポート。余裕があれば、既習範囲の抜け漏れを埋める対策を追加。
48～55	集団塾の授業の消化率は50-60%程度です。授業を理解できないことがあります。宿題でも躊躇っているものがある。	塾の授業で理解できなかったことを放置し、宿題でも解消していない／宿題を1周するだけなど、十分取り組めていない	保護者のサポート、宿題の消化具合等を踏まえて、学習サイクルを再構築。集団塾サポートor既習範囲の復習は、状況次第。
44～47	集団塾の授業の消化率は40%程度です。基本的な問題は解けるものもあるが、本質を理解できおらず、応用できない。	塾の授業を理解できていない／基礎力が不十分なのに応用問題を解いている／勉強時間が足りない／計算練習など基礎力不足	基礎の抜けが多く、集団塾の宿題を十分こなすことが難しい場合がある。取り組む問題を選別し、残り時間は既習範囲の復習に取り組む。
43以下	集団塾の授業の消化率は20%程度です。計算力、語彙力などが弱く、塾の授業を活かすことができないと考えられます。	基礎力・既習範囲の定着不足のため、塾の授業をほぼ理解できおらず、新しい内容を吸収できていない	転塾も要検討。転塾しない場合は、取り組む宿題を最小限に選別し、既習範囲の復習に取り組み、基礎力UPに専念。いち早く集団塾の授業を活かせるようになることを目指す。

※偏差値はテスト・模試によるため、上記はあくまでも目安です。

※また、科目によって偏差値と授業の理解度の捉え方は異なります。上記は算数、理科としてご参照ください。

個別指導塾の使い方

お子さんの状況、志望校を踏まえて、
適切に個別指導塾を利用することが大切です

大手集団塾との併用

大手集団塾と併用する場合にも、
使い方は様々です。LEFYでは生
徒に合わせて柔軟な指導を行って
います。

CASE1

大手集団塾の教材を使用してサポート。
追加教材は使わず、最小限の負担で集団
塾の理解を促進。

CASE2

小5,6で、既習範囲の抜け漏れが多い場
合は、追加教材を用いて基礎の穴埋めを
する。

CASE3

市販の過去問の解説は非常にコンパクト
で理解が難しい。志望校対策／過去問演
習をサポート。

個別指導塾だけで受験

近年は、個別指導塾だけで受験す
る方も増えつつあります。
「1ステップずつちゃんと理解して
から先に進めたい」

「御三家など、最難関校は目指さ
ないので、子供に最適な、無理の
ないペースで学習を進めたい」

「親が勉強の内容面をフォローで
きないので、全面的に任せたい」
といった場合、個別指導が最適で
す。信頼できる個別指導塾を選び
ましょう。

中学受験の合否は算数の出来次第

算数は「配点が大きく」「得点差がつきやすい」ことから、合否に大きく影響する

配点が高い

算数・国語は配点が高い。

	開成	桜蔭	聖光	豊島岡	渋幕
国語	85	60	150	100	100
算数	85	60	150	100	100
理科	70	40	100	50	75
社会	70	40	100	50	75
合計	310	200	500	300	350
算数配点比率	27%	30%	30%	33%	29%

得点差がつきやすい

1 問題が難しい

中学受験の算数は、小学校で学ぶ算数とは比較にならないほど難しい。難易度が上がるほど、子どもたちの学力差が顕著になる。

2 小問数が少ない

問題数が少なく、1問あたりの配点が高い。1つのミスが大きな得点差につながる。

3 1つのミスが後につながる

算数の大問では（1）の答えが合っている前提で（2）が作られていることがほとんど。ミスが連鎖して大きな失点に繋がってしまう。

少なくとも算数は個別指導で強化することをおすすめします。

保護者の方に知って欲しい大事なこと

中学受験は親の舵取りで決まると言っても過言ではありません。有益な情報を集めましょう。

1 算数が強ければ受験の選択肢が広がる

算数は配点が高い学校が多く、大きな得点差が生まれやすいです。また、算数は短期間で成績を伸ばしづらいため、家庭学習の7割を算数に充ててもよいほどです。得点に繋がりやすい理社に逃げないようにしましょう。

2 「自律的勉強」を過度に期待してはいけない

小学生が内容やテキスト、プリントを管理したり、自ら進んで勉強することに期待してはいけません。最難関校を目指す子でも保護者の手厚いフォローを受けている場合が大半です。自主的に勉強できる子がいたとしても、それは得意意識や強い興味がある特例です。保護者がしっかりとサポートし、必要ならば個別指導塾や家庭教師などの力を借りることを検討してみてください。

3 解説を「自力で理解」できる小学生はごく一握り

中学受験のテキストの解説を自分で読んで、理解することができる小学生はごく少数です。ましてや、その上で自分で解きなおして定着させることができる子は、ほとんどいません。保護者のサポート、個別指導塾や家庭教師のサポートなしで、お子さんに丸投げする形では、中学受験の成功は難しいです。

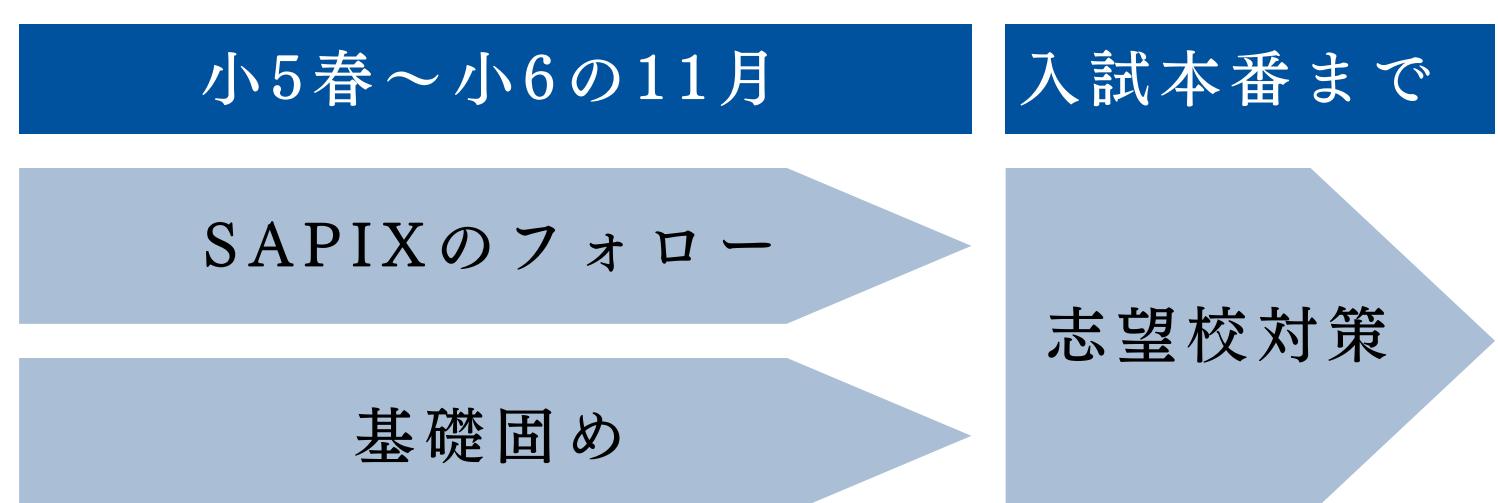
4 難関校の問題は本当に難しい。保護者も体感しよう

最難関校の入試では、大人でも解けないような問題が出題されます。「そうは言っても、塾で習ってるんだから勉強すれば解けるんでしょう？」と思っている方も多いようです。実際に保護者の方も志望校の問題を解き、難易度を体感しておきましょう。保護者も実際の問題に触れてみると、お子さんの勉強をサポートする際の声掛けや学習計画づくりに具体性を持たせやすくなります。

LEFYで成績が伸びた生徒の事例

CASE1 SAPIXのフォローと基礎固めを同時並行で第1志望校合格

SAPIXに通塾しており、小5春からLEFYで週2回算数を受講。「毎週のSAPIXの課題フォロー」と「追加教材を用いた既習範囲の基礎固め」を実施。11月末頃まで基礎固めを徹底し、その後、一気に過去問対策を行った。第1志望校の算数がかなり独特な問題であったため、1対1の個別指導を活かして、すべての問題をしっかり消化し、傾向を掴めたことで、徐々に過去問の得点が伸びた。結果、第1志望校に合格。勝因は「ギリギリまで基礎を固めたこと」「保護者の方のサポートも手厚かったこと」「できるだけ嫌にならない家庭学習で取り組めたこと」。算数に苦手意識があるお子さんは、算数の宿題に取り組むときに、投げやりになってしまることがある。それは本人にとってハードルの高い問題ばかりで、心が折れてしまうからかもしれない。徐々に、少しずつストレッチして成績を伸ばせるような学習計画で取り組むことで、お子さんがスムーズに勉強に取り組めるようになる。



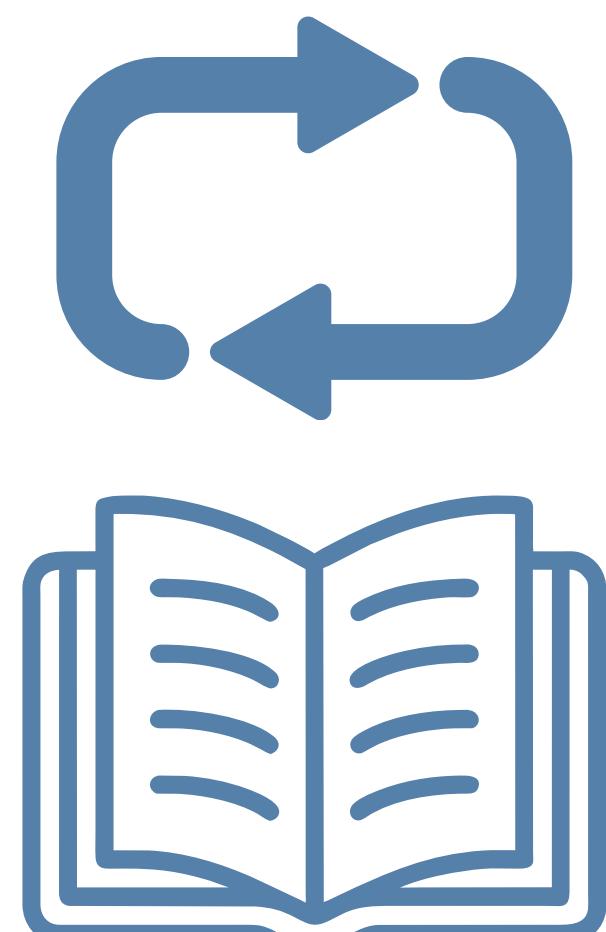
CASE2 最難関校の過去問を徹底的に15年分以上実施

大手集団塾に通塾しており、塾で課される宿題は問題なく消化できていた。ただし、小6の志望校別対策だけ一部苦戦したため、スポットでサポート。それ以外は、第1,2志望校の過去問を15年分ほど消化した。市販の過去問は解説がさらっとしているため、小学生が自分でしっかり消化することは難しく、保護者の方が教えるのも難しい。また、市販の過去問に記載の解き方以外にも、いくつか解き方があるケースがあり、記載の解法を思いつくハードルが高すぎると考えられる場合は、その他の解き方を解説。また、志望校によって、考え方の記述が求められる、煩雑な調べ作業が必要な問題が出題される、問題文が長く情報を丁寧に整理することが求められるなど傾向があったため、それについて本人の弱点を踏まえ、余白（計算欄）の使い方や時間制限を考慮した記述の詳細度、調べ作業時に頻発するミスをメモ化して渡し、常に意識してもらえたようにした。結果として、第1志望校、第2志望校の両方に合格。



CASE3 LEFYで4科受講。難問はナシ、基礎～中レベルをひたすら周回

偏差値60以上のいわゆる難関校を除けば、大手集団塾で扱われる応用問題、難問を解けなくても合格することが十分可能（一部単元は取り組む必要有）。特に偏差値55未満（テストによるため目安です）のお子さんの場合、難問を解けるようにする努力よりも、基礎～中レベルの問題の本質を理解し、素早く、確実に解けるようになることのほうが遥かに重要。難問、応用問題に取り組んだとしても、その本質を理解できず、形式的に解き方を暗記するだけになってしまい、非効率的。そのためLEFYでは、中学受験塾で扱われるテキストから、超重要な問題だけに絞り込み、それらを約8周できるような学習計画を立案。これにより、典型的な問題は素早く確実に解けるようになり、何度も解きなおしたことで、重要な単元の本質を理解し、応用問題にも手を伸ばせるようになった。結果として、第1志望校に合格することができた。志望校次第では、中学受験テキストに掲載されているすべての問題をできるようになる必要はない。



LEFYの講師陣

個別指導はお子さんからの信頼感が最も重要。
指導力とソフトスキルを兼ね備えた講師が担当します。

指導力

以下のような講師ばかりが在籍しています。

■ 社会人プロ講師

- ・豊富な中学受験指導経験
- ・自身が中学受験経験有り

■ 大学生・大学院生

- ・中学受験生の担当講師は自身が中学受験を経験し、中高一貫校を卒業した講師
- ・聖光学院、浅野、フェリス等、神奈川県内の難関中学出身者が中心

ソフトスキル

左に記載のような経験、指導力は前提として、ソフトスキルを重視しています。個別指導は講師と生徒の距離が近く、生徒の性格、タイプに合わせた柔軟なコミュニケーションを取ることが求められます。LEFYの講師の採用率は20%程度。



よくあるご質問

Q どの科目を受講すべきですか？
何コマ必要ですか？

A 苦手な科目が優先ですが、多くの場合、算>理>国・社の優先順位です。コマ数は志望校と現状の学力、保護者様のサポート状況によりますが、当塾平均で1科目あたり1.9コマ／週程度です。

Q 家庭学習の進め方や志望校の相談も可能ですか？

A なんでもご相談ください。定期面談（対面/Zoom）は約3カ月に1度ですが、その間にも必要に応じて、対面、お電話、メールでいつでもお気軽にご連絡ください。

Q 担当講師を指名することはできますか？

A ご希望（社会人講師or大学生、男性女性等）がございましたらお申し付けください。**優先して調整します**。ただし、専属アドバイザー（山本・服部）を講師として指名する場合はコースが異なります。

Q 公立中高一貫校にも対応していますか？

A はい、**対応可能です**。ただし、学習内容は、公立中高一貫校のみを受験するのか、私立も併願するのか、どのような私立を併願するのかによります。諸々ご相談の上、学習内容を決定します。

料金システム

こまめな講習や教材費などで想定よりも高い...
ということはありません。シンプルなシステムです。

<p><初回のみ></p> <p>● 入塾金 33,000円 (税込み)</p>	<p>+</p>	<p><毎月の費用></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 授業料 1コマ 80分／週 × コマ数 ● 設備利用料 3,300円(税込み)
--	----------	---

これ以外の費用はかかりません。

※季節講習を受講する場合は必要になりますが、ご受講は必須ではありません

ハイスタンダードコース

社会人プロ講師、もしくは中学受験経験者かつ難関大在籍の大学（院）生が担当します。

エクセレンスコース

難関校合格に導いた実績、指導経験、指導力、幅広い多様な生徒に信頼されるソフトスキル、豊富な社会経験を備えたLEFY認定講師が担当。

エグゼクティブコース

専属アドバイザーの当塾代表、山本、服部が授業も担当。

ご入塾までの流れ

学習カウンセリング、体験授業は無料です。

ご不安な点、ご不明点等、事前にラインでなんでもお問合せください！

まずは体験授業までお気軽にご参加ください

STEP

1

STEP

2

STEP

3

STEP

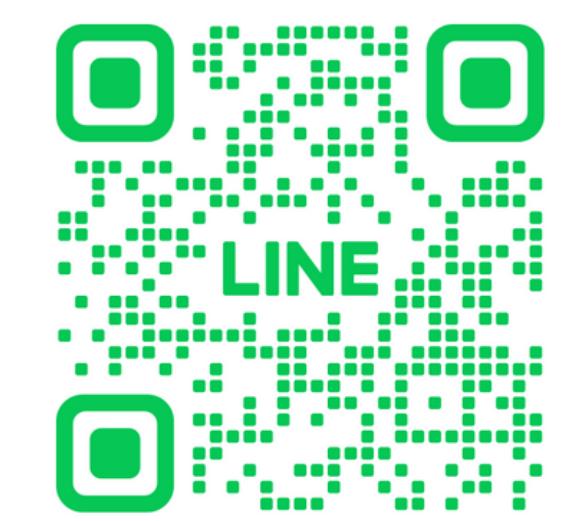
4

学習カウンセリングの申込／日程調整

<WEB>



<公式LINE>



学習カウンセリング／体験授業の調整

学習カウンセリングにお越しください。30分-1時間ほどです。

現在のご状況、志望校等をお伺いの上、当塾がどのようにお力添えできるかご案内いたします。学習カウンセリング後、体験授業の日時を調整します。



体験授業

1コマ80分の体験授業を行います。ご入塾された場合に担当することになる講師が体験授業を担当します。担当した講師と相性が合わない場合、別講師で再度体験授業をすることが可能です。体験授業のフィードバックは対面、オンライン、メール、お電話のいずれかで行います。



ご検討／ご入塾

体験授業をご受講いただき、ご検討ください。

ご入塾いただく場合は、改めて授業内容のご相談をさせていただきます。



LEFY
レフィー